



今回は、「CFP（カーボンフットプリント）」のお話です。
CFP（カーボンフットプリント）とは製品やサービスのライフサイクル全体（原材料の調達、製造、流通、使用、廃棄・リサイクル）で排出される温室効果ガスの量を、CO₂換算で「見える化」した指標です。これにより、消費者は環境負荷の少ない商品を選ぶことができ、企業は排出削減の取り組みを促進できます。

CFP表示により、環境にやさしい買い物ができるようになり、CFPの算定を行うことで、エネルギーの無駄や資源浪費を発見でき、結果的に製造コストや廃棄コストの削減が可能になります。

日本政府は2050年までの「ネット・ゼロ」（温室効果ガスが排出される量と吸収・固定される量の差引がゼロになること）の実現を目指しており、その基盤として温室効果ガスの量「見える化」する仕組みは不可欠です。今、さまざまな業種の企業が製品やサービスへのCFP表示を始めています。

【ここに注目】

CFPの算定には、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの全プロセスを分解し、プロセスごとに排出量を計算する必要があるなど、大変な労力がかかります。しかも、それが必ずしも売上などに直結するわけではないのが現状です。

しかし、CFPを算定するということは、その企業が温室効果ガス削減に真摯に取り組んでいるということを示しています。CFP表示は、企業の表れであり、消費者に対して「一緒に気候変動対策に取り組もう」というメッセージでもあるのです。

【関連URL】

CFPプログラム「CFPとは」
<https://www.cfp-japan.jp/about/>

環境省「エコジン」買い物の基準が変わる？カーボンフットプリントに注目しよう
<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20250806.html>

環境省脱炭素ポータル「カーボンフットプリント（CFP）」
https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/words/carbon-footprint.html

認知症地域支援推進員のつぶやき

No. 86

認知症予防のカギは「3ベル」
～しゃべる・食べる・調べる～

久々にオレンジカフェへお邪魔しました。認知症の方やその家族の方、また民生委員さんなどさまざまな方がいらしていました。いろいろなことをお話している時に、「3ベル（しゃべる・食べる・調べる）」が認知症予防に良いと参加者の方が仰っていました。この「3ベル」は毎日の生活の中で無理なく取り入れられる習慣として広がりを見せています。

まず「しゃべる」。人と会話をすることで脳が活性化されます。友人や家族、近所の方と積極的に話す時間を持つことは、気持ちのリフレッシュにもつながります。

次に「食べる」。栄養バランスのとれた食事は、体だけではなく脳の健康にも大切です。特に野菜や魚、発酵食品などを意識した食生活が推奨されています。楽しく食べることも重要です。

最後に「調べる」。新しいことを学ぶ・挑戦することで、脳は刺激を受けます。新聞を読む、興味を持つ、地域の教室やイベントに参加するなど、ちょっとした好奇心が脳を元気に保ちます。

これら3つの「ベル」を意識することで、認知症の予防や、健康寿命の延伸に役立ちます。ぜひ、今日から「3ベル生活」を始めてみませんか？

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

●利根町地域包括支援センター ☎68-2211 ●利根町保健福祉センター ☎68-8291
●複合福祉施設 響 ☎61-8500 ●介護老人保健施設 もえぎ野 ☎84-6081

地域おこし協力隊通信



田井隊員

8月23日に「第9回走りの教室」を開催することができました。夏休みの忙しい中でも合計6名が参加してくれました。ご協力・ご参加いただきました皆さま、ありがとうございます！今回も熱中症対策として、利根小体育館で行いました。リズムトレーニングを導入として、陸上競技や全てのスポーツの鍵となるテンポの良い動きを学びました。楽しそうに音に合わせて動き回る子どもたちの笑顔にすごく癒された時間でした。また、皆さまのおかげで、中学生の学校部活動地域移行版「すばかるとね」でも、子どもたちが楽しく活動しております。事務局ではさらなる内容の充実に向けて、指導者を募っております。お知り合いにスポーツ指導が可能な方がいらっしゃいましたら、詳細を役場生涯学習課までご紹介いただければ幸いです。引き続き走りの教室やスポーツ関連事業、教育分野などを通じて利根町へ貢献していきたいと考えております。ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

「走る協力隊」稲垣鉄平です。7月下旬に1泊2日で群馬県上野村へ行ってきました。町が主催する自然体験交流事業に参加する利根小学校児童の、引率・サポート係として帯同してきました。天候にも恵まれ、子どもたちは川遊びや星空観測、フィールドアスレチックなど自然を感じる遊びやスカイブリッジ、不二洞など自然が作り上げた景色の観察など、とても刺激的で楽しい2日間だったのではないかと思います。ちなみに、自分も早朝に峠のランニングを楽しんでできました。参加した子どもたちには、これをきっかけに利根町の自然環境にも目を向けてもらい、田園風景の素晴らしさなどにも気づいてくれたらと思います。自身にも学びがあったので、今後の協力隊活動で発信していきたいと思っています。



稲垣隊員



藤田隊員

こんにちは！藤田です。空き家の利活用について、現在、惣新田の農地付き空き家を1軒お借りして、農的暮らしのワークショップスペースとして再生すべく、整備を進めています。8月からは、大学生のボランティア4名がお手伝いに来てくれています。空き家の敷地や農地の草刈り、倉庫の片付け、残置物の処分、清掃など、私1人では数日かかる作業が、若い力のおかげで半日、1日でスイスイ進み、大変感謝しております。現在、農地ではさつま芋を栽培しており、この秋には大学生ボランティアにも協力いただき、芋掘りや、新たな作物の作付け体験会などを実施したいと思っています。町内外の皆さまにもぜひご参加頂きたいと思っていますので、ご興味のある方は、お気軽に藤田までご連絡ください。

空き家コーディネーターの「ドゥーさん」こと安藤です。最近、空き家利活用のための活動をととして、多くの事業者さんを訪問、打合せをする機会が増えました。空き家問題一つを解決するために、さまざまな専門家が関わっていることを日々実感しています。空き家問題が複雑化する主な原因は、所有者の事情に加え、相続、税金、管理、売買といった多くの要素が絡み合うことにあります。これに地域や環境の問題が加わると、さらに事態は複雑化します。こうした問題から「後回しにしよう」と考えがちですが、その結果、家が廃墟化したり、管理が行き届かず雑草が生い茂ってしまうケースが少なくありません。問題が大きくなる前に、まずは家族間で早めに話し合うことが大切です。「誰が家を継ぐのか」「どのように管理していくのか」を明確にすることは、空き家問題を解決するための第一歩です。その話し合いのきっかけとして、国土交通省が発行している「住まいのエンディングノート」の活用をおすすめします。このノートは、国土交通省のウェブサイトや、利根町役場でも配布していますので、ぜひご活用ください。



安藤隊員